

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770109128		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから百舌鳥西之町		
所在地	大阪府堺市北区百舌鳥西之町2丁218-1		
自己評価作成日	平成22年2月14日	評価結果市町村受理日	平成22年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の日常生活が安全でかつ、安心して過ごせる様、個々のニーズ、状態を把握することに努めております。その上で一番大事にしていることは、入居者様に対する敬う気持ちや職員の倫理観の向上です。仮に自身の親が祖父母がここで生活するのなら・・・と置き換えて考えれば関わり方も自と解ってくるはずです。入居者様に対する言葉使い、態度に注意を払い、質の高いグループホームを目指しております。我々が常に笑顔で優しい心遣いで関わっていただけるよう日々努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770109128&SCD=320
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阪神間を中心に15施設の介護事業を運営するグループホームである。鉄筋3階建ての2～3階部分に2ユニットを設置している。居室を取巻く広いベランダは非常災害時には有効である。又居室や共用空間は広く明るくゆったりとした居心地の良い環境となっている。利用者の尊厳やプライバシーを追求し、介護者としての声の抑揚や表情、行動、態度などを常に振り返り、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、個性を大切に日々介護に取り組んでいる。散歩や外出、音楽会、音楽セラピーに力をいれ楽しんでいる。看護師を配置し日々の健康管理や医療機関との連携も適切に行われ、利用者や家族に安心感を与えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成22年2月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここから広げよう地域の輪」という理念のもと、職員に意識づけを行っています。	事業所独自の理念として「ここから地域の輪を広げよう。」と事務所内に掲げているが職員間での話し合いの機会や理解は困難な状況である。日々の暮らしの中に埋没されている。	理念について職員間で共通認識をもち朝の唱和や職員会議などで地域密着型サービスの意義を深め実践に向けて努力される事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一部、中学生との交流を図っていますが今後、各種団体との交流を計画していきます。	綾南中学の職場体験実習やソフィア塚の陶芸教室に参加したり、ボランティアによる音楽セラピーを受けている。散歩や買い物など近くのスーパーにも出かけ地域の一員としての交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ活かしかれていない面がある。今後は積極的に地域の人々に認識してもらうように努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見を十分に取り入れて実践にいかしていると思っておりますが、今後も継続的に行っていききたい。	運営推進会議は2～3ヶ月に1回開催し、管理者、計画作成担当者、職員、地域包括支援センター、家族などへ評価結果や活動状況を報告し、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要事項の連絡、報告にとどまっております今後の課題である。	市の介護保険関連部署には認定調査の調整や報告書提出などの必要に応じた相談、助言を受けている。今後認知症オレンジキャラバンなどを取り入れ、積極的に市との関係を築こうとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正解に理解するよう指導している。事故防止のため、玄関の施錠は行っている。	各ユニットの入り口や玄関はロックされているが利用者への弊害について職員は充分理解されており、外出や散歩に毎日出かけることで閉塞感の無いよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践状況できている。一番の理念として高い倫理観の元、職員も努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に携わってきたが、現状職員はケースがないために学ぶ機会がもてない事情もあり、今後、理解し活用できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践できている。積極的に疑問点等聞き、当施設での説明は十分行い、理解を頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実践できている。日々家族の意見を反映させ運営に努めている。	玄関入り口に苦情箱も設置されておりミーティングや面会、運営推進会議の折希望や要望、苦情を聞き取り課題を検討しそれらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員の意見を聞き検討、勘案し意見を反映できるように努めている。	定期的なミーティングを行い要望や意見を管理者と共に話し合っている。管理者は新人の職員体制の安定化を図るため日常的に職員の意見を真摯にくみ取り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員に対し、長所を生かし、仕事に反映できるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員については、常に個別指導、法人内外の研修機会を設け質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修などで交流はあるが、法人外での交流等は今後の課題であり、実行していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴にて本人の意向、要望、現状、生活歴の把握、アセスメントを行い安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴にて家族の意向、要望、現状、生活歴の把握、アセスメントを行い安心の確保に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談、職員からの情報、モニタリング、アセスメントを踏まえた上での支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事、買い物など本人の能力に応じて、職員と共に行っている。「大きな家」で共に生活を過ごしているという観点の元で信頼関係を築くように日々努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議、面会訪問、電話等にて生活状況の報告や意見を伺うなど家族とのコミュニケーションを図りながら努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今後の課題として、本人が慣れ親しんだ場所、人との関係が継続できるように、本人、家族、職員と連携を図りながら支援を行っていく。	今迄築き上げてきた人間関係を把握し家族や関係者との継続を大切にしている。面会や外出、食事など自由に行きつけの場所に行けるように、本人本位の馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の家事やレクリエーション、行事の準備、買い物、散歩など利用者同志、日々関わりができるように配慮、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、退去後家族からの相談があり支援している。今後も継続していく。必要も感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、話しを傾聴、職員間での日常生活の把握、共有しモニタリングを行っている。継続して本人意向の生活が継続できるように日々努めている。	体験入居などを実施し家族や関係者から意向を聞き生活歴の把握に努めている。日々の生活を通して思いをくみ取り、職員間で情報を共有し本人の視点に立ち、希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々生活状況のモニタリングを実施し、本人が安心、満足できる日常生活が送れるように職員間での周知、情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活状況のモニタリングを実施し、本人が安心、満足できる日常生活が送れるように職員間での周知、情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリング、職員間での意見交換にて努めて、現状に即した計画を作成している。	利用者や家族、関係者と話し合い、また職員間で得た本人の情報を基にミーティングで課題を分析把握してアセスメントを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録のみではなく、職員間で周知できるように別紙記録を用いて情報共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じた生活を提供するために思考錯誤しながら様々なサービスの支援を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度の課題として地域資源の活用にて楽しみのある生活が送れるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の状態把握を常に行いながら医療機関との連携を図っている。身体状態に応じた医療機関も勧めている。	受診は利用者の希望で自由であるが現状は同意に基づいて歯科週一回、内科週一回の提携医による往診が行われている。又状況に応じて適切な医療機関との連携で健康管理が出来る体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状態など早期発見に努めるため、看護、介護職員間で密な連携を図り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時ともに本人が安心して治療、復帰できるように医療機関の職員、医師などと情報交換にて本人が安心して生活できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人が可能な限りホームで生活するために職員、家族にて協働、チーム支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針書があり、終末期における対応についても入居契約時に本人、家族、関係者に説明をしている。終末期には職員、家族、医療機関とも連携をとり、方針を共有してチームで支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要事項にとどまっておりは定期的な訓練を実施していくことが課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分な訓練や地域との協力体制ができていないために今後の課題として取り組んでいく。	年2回災害避難訓練を実施しており防災避難マニュアルもあり緊急連絡体制も整備されている。居室の周囲は全てベランダで非常階段も広く非難に適しているが避難階段前は洗濯干し場となっている。	ベランダの非常階段昇降口近くに、常時洗濯物を干し通路を塞ぐようになっているので他の場所への移動計画が必要。また災害時、地域の協力や支援態勢の確立を検討すべきである。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念として一番大切な本人の尊厳を心がけて対応している。	利用者への言葉かけについては職員全員が配慮し、日常ケアにおける対策と合わせて会議などで徹底して話し合い利用者の尊厳を大事にしている。記録も利用者のイニシャルを使用するなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表現しやすく、自己決定ができるような雰囲気作りに配慮し、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズに応じて、本人が過ごしやすい生活ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択など職員と共に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、準備、片付けなど職員と共に実施している。	業者からの配食を利用者に合わせて調理している。炒め物をしたり、食卓を拭いたり、配膳、下膳、食器洗いなど残存能力を活かし参加できるように努めている。職員も共に食事をしながら摂食を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、栄養状態の把握、疾患により嚥下機能の低下の利用者に対しては、ミキサー食やとろみで対応している。本人の状態に応じて食事形態も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員と共に実施している。口腔内の清潔のみではなく、嚥下機能の向上のためにも毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最低限おむつ使用しないよう個々の状態に応じて排泄の自立に努めている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、排泄サインに注意しながら声がけなどの支援をしている。ADLを考慮し気持ちよくトイレで排泄できることを目指し、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日たりハビリ体操や散歩、腹圧や腸蠕動を促される日常生活動作など考慮し共に実践している。便秘体質の方には乳製品を日々食べていただくなど努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のペースに合わせて無理なくゆっくりと入浴、脱衣を行って頂いている。希望あれば毎日入浴もしていただいている。	希望者は毎日入浴することも可能であり入浴を拒否する利用者にはベテランの職員が対応している。夏場はシャワー浴や不眠の方には足浴などで個々に添った入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	意思表示ができない方にも身体状態に応じて休息をとって頂いている。安眠できるように照明、布団、気温に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢、疾患、長期間の内服など状態の観察や副作用など十分に注意し実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の理念でもある尊厳の観点から一番重要とし、ご本人の満足できる生活が営まれるように実践できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じて外出を行っているが、家族、地域との協働においては今後の課題として行っていく。	施設の周囲や住宅街に1日1回太陽の光を浴びる為に散歩に出かけている。気分転換に本人の希望に添って喫茶店やモーニングに行ったり、気候の良い時期には弁当を持ち新檜尾台公園まで足をのばしピクニックを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が所持しているも、現状施設の立て替えで行っている。今後は状況に応じて所持も行っていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に必ず応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮し実践できている。利用者と共に台所で調理なども行っている。	2～3階のリビングの壁にはゴッホの絵がかけられ入り口には観葉植物を置き、トイレや浴室、脱衣場は車椅子でもゆとりのスペースである。アイランドキッチンの導入部も広く全てに於いてゆったりとした居心地のよい明るい生活空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に応じてくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人の暮らし、馴染みのあるものを持ってきて頂くように配慮している。	本人や家族と話し合い居室には好みの家具や使い慣れた装飾品、小物、家族の写真、テレビ等を持ち込み、馴染みの物を活かし、安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように配慮している。		